

清水第八中グループ「小中合同研修会」(R5. 8)



小中一貫教育情報

8月2日(水)、興津生涯学習交流館に清水入江小学校と本校の全教員が集まり、第2回小中合同研修会を行いました。講話の部では、昨年に引き続き、講師に公益社団法人子ども発達科学研究所の大須賀優子様をお迎えし「すべての子どもの発達を支える学校のシステム」というテーマで、お話を聞きました。その講話の中で「前向き行動支援」というお話がありました。その視点は学校における教師と生徒の関わりに加え、ご家庭における保護者様とお子様の関わりにも参考にできると思いますので、一部ご紹介いたします。

食事を食べ散らかしたり、きょうだいで喧嘩をしたりすると叱る。食事を食べ散らかさずに済ませたり、きょうだいで仲良くしたりすれば叱らない。つまり子どもが不適切な行動をすれば叱り、適切な行動をしているときは叱らない。このようなことがあると思います。では、「叱る」と「叱らない」を子どもの側から別の表現にするとどういうことになるでしょうか。「叱る」は注目されること、「叱らない」は無視されることと同じであるそうです。また注目は褒めると同じで無視は褒めないと同じであるそうです。結果、不適切な行動が増え、適切な行動は増えなくなります。では、どうすればいいのか。適切な行動を明確にして、そこを見逃さずに褒める(注目する)ことです。適切な行動と、対になっている不適切な行動は一度には起きません。食事を食べ散らかさないこと、きょうだいで仲良くすることなどを当たり前とせず、それが適切な行動であると明確にして、そこを褒めることで適切な行動が増え、対となる不適切な行動が減ることになります。これを「前向き行動支援」といいます。

保護者様はお子様の適切な行動を明確にして、そこを注目することに力を注ぐ。それによって保護者様は常に良いことを見つける視線をお子様に投げかけることになり、お子様にも自身の良いところに注目されていることが伝わる。そのようにしてお子様の自己肯定感や自己有用感が高まっていけたら、とても素晴らしいことですね。

